

ドクターヘリの全国的普及の課題と オペレーティング・リースの活用

株式会社アイ・ティー・シー・アエロスペース
株式会社アイ・ティーシー・リーシング
代表取締役社長 中山智夫

当社は過去 20 年間に互り数多くの救急救命ヘリ及び航空機をオペレーティング・リースで米国、カナダ、メキシコ、ブラジル、インド、ネパール、台湾、NZ、オーストラリア、フィリッピン、タイ、グリーンランド、アイスランド、英国、スペインなどの総合病院、運航会社、政府、地方自治体などに納入しました。

中でも米国ミシガン大学病院向けのベル 412 二機、ブラジル全国医師組合向けシコルスキー S76A 一機とスイスピラタス社製タービン機ピラタス PC-12 一機、米国エアメソッド向けベル 222 三機、スペインマジョルカ島向け B-N アイランダー機一機、米国オムニフライト向けベル 206L3 四機、グリーンランド向けベル 412 一機、米国エア・マーシー向けベル 206L3 三機とベル 222 二機、台湾デイリーエア向け B K 117B2 一機、チャド政府向け PC-12 一機、フィリピン大統領府向けベル 412 四機等など数多くの救急救命ヘリのリースを手掛けました。

ニュージーランド向け救急ヘリは“チャイルドケア”と呼ばれてウエストバック銀行の社会貢献事業の一環として運航経費をすべて銀行が負担してオークランド市内の小学生及び幼稚園児を対象とした救急救命ヘリのリースでありました。

グリーンランド向け救急救命ヘリは、狩猟中に道に迷ったエスキモー（原住民）の救助、氷原でクレバスに落ちたケガ人の救出、氷河と共に沖に流された原住民の救助などに使用されています。

スペインマジョルカ島向けのアイランダー機

は島民と大勢の観光客が訪れる夏場のケガ人や急病患者をいち早くスペイン本土のバルセロナの総合病院に航空機で緊急搬入するためでした。

ブラジルでは、医師組合の全国組織 UNIMED が急病者を全国的にカバーするネットワークを確立するために初号機としてヘリと固定翼をリース導入しました。

我が国の救急救命ヘリは別名ドクターヘリと呼ばれて 12 年程前から日本で試験的に開始し、政府と地方自治体から年間 1.6 億円の補助を受けて運航、今年で漸く 18 機の導入が実現しつつあるが、米国や欧州での実績と比べまだ緒に付いたばかりです。

しかし、ほぼ皆無に等しかったドクターヘリが今日まで認知された制度になるまでの医師、病院、運航会社、政府・自治体の関係者方々の努力には深い敬意を払うものです。

今後ドクターヘリの更なる全国展開と安全且つ充実した運航のためにより多くの補助金が必要と云われる一方で、民間レベルでの更なる努力と工夫が必要と考えます。

ドクターヘリで、もっとも費用が掛かるのが、7 億円から 8 億円のヘリ購入費用と、年間 600 時間の出勤を前提とした場合にかかる 1 億円強の運航・整備費です。

ヘリ運航会社として、運航経費に占める機体の償却費の割合は大きく、この部分が圧縮出来ると運航コストを下げることに繋がり、その鍵とな

るのが、ヘリコプターのオフバランスでのリース導入です。

すでに、欧米では多くのドクターヘリ及び後で述べるフライングドクター機の方が、安価で競争力のあるリース組成によって供給されています。

こうしたオフバランス化によるリースでの機体導入が日本のドクターヘリ及びフライングドクター機に適用されると、航空機材の導入が容易となり、単年度予算を前提とする国と地方自治体の補助金に頼る度合いが大きく薄れることとなります。

添付資料は、当社の現在の機種別ドクターヘリ及びフライングドクター機のリース料一覧表です。

例えば月額560万円（機体購入金額の0.8%未満）をリース料として支払うことで7億5000万円のドクターヘリを導入することが可能であることをこの一覧表は示しています。

国と地方自治体の予算措置を長い年月待たず、救急病院及び運航会社は、ドクターヘリ、更にはフライングドクター機を調達することが可能です。

ドクターヘリに加えて、今後の救急医療分野でフライングドクター機（固定翼）による救急患者の搬送が日本国内でも必要となってくるものと考えます。

北海道のような広範な地域をすべてヘリコプターでカバーすることは不可能で、どうしても固定翼が必要となります。また、離島を有する鹿児島県の場合は、固定翼でカバーする必要も出てき



ドクターヘリ及びフライングドクター機のオペリース提案書

作成日：2009年12月17日

メーカー	日本 川崎重工	仏国 ユーロコプター	日本 川崎重工	英国 プリテン・ノーマン	スイス ピラタス・エアクラフト
機体	BK117C2	EC135P2+/T2+	BK117B2	Islander 2T	Pilatus PC-12
製造年	2010年	2010年	1989年	2004年	2004年
機体価格	7億5,000万円	6億800万円	—	—	—
月額リース料	560万円	504万円	315万円	300万円	410万円
月額リース料割合	0.74%	0.74%	—	—	—
リース料支払い	毎月末	毎月末	毎月末	毎月末	毎月末
リース期間	7年	7年	2年～3年	7年	7年
預託金	月額機体リース料3か月分	月額機体リース料3か月分	月額機体リース料3か月分	月額機体リース料3か月分	月額機体リース料3か月分
為替レート	—	1EUR=135円	—	—	—
リース終了時	①中古市場価格で購入 ②リース延長 上記2つのオプションより選択	①中古市場価格で購入 ②リース延長 上記2つのオプションより選択	①中古市場価格で購入 ②リース延長 上記2つのオプションより選択	①中古市場価格で購入 ②リース延長 上記2つのオプションより選択	①中古市場価格で購入 ②リース延長 上記2つのオプションより選択
O/Hリザーブ	メーカー発表のO/Hリザーブの積立	メーカー発表のO/Hリザーブの積立	メーカー発表のO/Hリザーブの積立	メーカー発表のO/Hリザーブの積立	メーカー発表のO/Hリザーブの積立
機体保険	機体価格に対し借り手が貸手を受取人とする保険付保	機体価格に対し借り手が貸手を受取人とする保険付保	機体価格に対し借り手が貸手を受取人とする保険付保	機体価格に対し借り手が貸手を受取人とする保険付保	機体価格に対し借り手が貸手を受取人とする保険付保
備考	・VFR仕様 ・ドクターヘリキット Air Ambulance社製	・Single Pilot VFR仕様 ・ドクターヘリキット Aerolite社製	・VFR仕様 ・ドクターヘリキット Air Ambulance社製	・IFR仕様 ・EMSキット Air Ambulance社製	・IFR仕様 ・EMSキット Air Ambulance社製

注) 上記機体購入金額及び月額リース料は、参考見積です。また、上記価格はすべて税別です。最終的な見積もりに関しては、弊社中山・織田(電話:03-3555-3621)までご確認ください。

ます。

北米はもとより欧州のオーストリアや南米のブラジルでは、上述する【フライングドクター機】と呼ばれるタービン航空機が多く導入されています。救急患者の中・長距離搬送がヘリに代わって行われており、日本でも大いに参考にする価値あるものと考えます。

双発固定翼機である「タービンアイランダー BN2T」や「ピラタス PC-12」といったタービン機は、航続距離が短いヘリコプターではカバーできない離島の救急患者の搬送には不可欠な機材です。

こうしたヘリと航空機の併用によって日本も欧米並みに救急患者の一刻を争う救急病院への短

時間搬送が可能となり、且つ、小型タービン機を活用した【フライングドクター機】による救急救命サービスを実現することで、機体導入費と運航・整備費の大幅な低減を実現し、国と地方自治体にすべての費用を依存しない民間の創意工夫に基づく活動につながるものと考えます。

【ドクターヘリ及びフライングドクター機】のリース導入に関する資料請求とお問合せは、以下にご連絡下さい。

(株) アイ・ティー・シー・アエロスペース
(株) アイ・ティー・シー・リーシング
代表取締役社長 中山智夫、織田耕平
電話： 03-3555-3621 Fax： 03-3555-3627
e-mail： nakayamat@itca.co.jp
k.orita@itca.co.jp



【タービンアイランダー BN2T】

- ・エンジン：RR 250-B17C 二基 420 馬力
- ・最大巡航速度： 274 Km/ 時間
- ・航続距離： 1400 Km
- ・積載量： 689 Kg
- ・EMS キット： 1 人用

【ピラタス PC-12】

- ・エンジン：P&W PT6A-67B 一基 1200 馬力
- ・最大巡航速度： 494 Km/ 時間
- ・航続距離： 3320 Km
- ・積載量： 1197 Kg
- ・EMS キット： 2 人用

